



イルカ通信

隔月1回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

「小笠原での初ザトウ」

小笠原でもとうとう初クジラのニュースが飛び込んできました。今シーズン最初の発見は11月13日。父島の東側にある東島と巽島の間で、2頭のザトウクジラを発見したとの情報をいただきました。昨年の初クジラは11月21日でしたので、一週間ほど早い発見となりました。

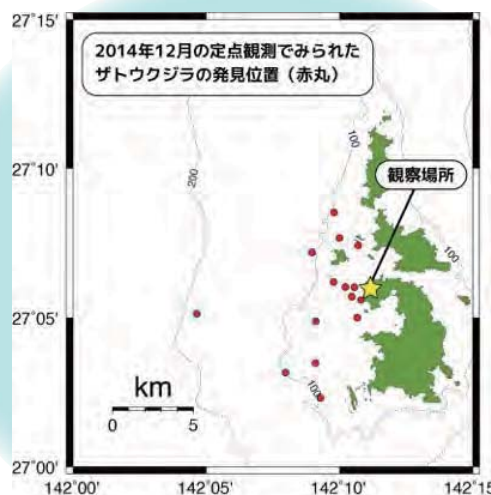
その翌日も同じ場所で発見され、16日には瓢箪島付近で、18日には弟島の西側での目撃情報が寄せられました。同じクジラが付近に留まっていたのか、それとも違うクジラなのかは分かりませんが、いよいよザトウシーズンの始まりです。早速、OWAではBしっぴ前に「鯨のぼり」を掲げています。



鯨のぼり

そんな中で気になるのが、去年の年末から毎日のように渚之浦で可愛い姿を見せてくれた子クジラ「タッキー」。今年もやってくるのでしょうか？一般的にザトウクジラの授乳期間は10ヶ月程度とされています。母クジラと一緒に戻ってくるか微妙なところですが、今年も元気な姿を見せてくれると良いですね。

12月になってウェザーステーションからの定点観測が始まりました。12月下旬に入ると、毎日のようにザトウクジラを発見しています。皆さんも是非探してみてくださいね。



定点観測で見られたザトウクジラの発見位置(赤丸)

「シンポジウム参加報告」

11月末に京都大学で開かれた海棲哺乳類のシンポジウムに参加してきました。今回参加したシンポジウムでは「日本各地の調査」というテーマがあり、OWAがこれまで10年以上に渡って小笠原で実施してきた定点観測や「興洋」での目視調査、イルカの個体識別調査について講演してきました。発表が終わった後も色々と質問を受け、小笠原への関心の高さを実感する良い機会となりました。会場には200人を超える参加者が集まり、各発表の後では盛んに意見交換が行われていました。



また野生のイルカの体長を触らずに計測する方法など、新たな手法に関する発表もあり、とても有意義なシンポジウムとなりました。今年も調査や研究を進めていきますので、その調査結果をお伝えしていきたいと思います。どうぞご期待ください。